

件名	R1 年度第 1 回湯梨浜町泊地域小さな拠点検討協議会
日時	2020 年 1 月 30 日(木)18:30~19:30
場所	湯梨浜町中央公民館泊分館 2 階大会議室
出席者 (敬称略)	(委員 8 名)遠藤公章、石沼友、朝日田卓朗、尾川寛信、西田貴頼、萬茂、田嶋昭彦、石井美佳代 (オブザーバー) ・各区長 小浜区、筒地区(代理)、石脇区、泊 1 区、泊 3 区、泊 4 区、泊 5 区、園区、原区、宇谷区 ・県中部総合事務所地域振興局 山口リーダー、米原係長 ・地域活性化伝道師 澤田氏 ・海の駅とまり協議会 今若氏、山田氏 ・地域おこし協力隊 鳥山隊員、明石隊員 (事務局) 湯梨浜町役場 亀井副町長、町民課 杉原課長、村上補佐、生涯学習・人権推進課 丸課長、産業振興課 榎本係長、みらい創造室 遠藤室長、谷岡係長 計 32 名
決定事項 (合意事項)	
次回までの 調整事項	
配布資料	(内部資料) 小さな拠点検討協議会議第 1 回レジュメ、小さな拠点検討協議会委員名簿、泊地域核施設の方針、令和 2 年区長名簿(泊地域)、住民アンケート結果

1. 開会

(会長)時間になったのではじめましょうか。みなさんお忙しい中お集まりですので、それではただいまより、令和になりましてからの泊地域小さな拠点検討協議会を開催したいと思います。

2. 会長あいさつ

(会長)今日お忙しい中、委員のみなさまそして各区の区長様にこのようにたくさん来ていただきまして、ありがとうございます。この小さな拠点というのは、やはり泊がだんだんと過疎化して行って、買い物とかが非常に不便になっているという現状がございまして、商店も泊に 2 軒、お肉屋さんや酒屋さんにしても、2 地区に 1 軒ずつですかね、もう本当にお店っていうお店が、目に見えて減ってきて、本当に先々泊では買い物が出来なくなるんじゃないかというような、特に日用品とかですね、そういった物を何とかしないといけないんじゃないかという事で始まりまして、併せて公共施設、この公民館も含めて、そういった物がどういった活動ができるのかという事も含めて、旧泊村エリアというところで、もう少し暮らしやすい方法はないかという事で、協議会と役場で、始めたところですけど、もうすでに 2 年以上たちましたけども、現在の進行状況は後ほど、ご説明させていただきますけども、是非町民のみなさまと、旧泊村の方と一緒にあって、やはり考えていただいて、一緒になってなんか作り上げていきたいなあと思いますので、各区の方からもたくさんのご意見をいただきたいと思いますし、委員のみなさま、各関係の方々からもいろいろご意見いただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。それでは続きまして、今日は副町長においでいただいておりますので、一言ごあいさついただけたらと思います。

(副町長)みなさんこんばんは。私平成 30 年の 4 月から、湯梨浜町の副町長をさせていただいております。実は昨年 9 月まではですね、もう一人の地方創生の担当の副町長さんがおられまして、その副町長さんの方がこの小さな拠点の方を、生涯活躍のまちの一環として担当をしておられまして、それ以降新しい副町長の選任はなく、私の方が他の業務も含めまして、小さな拠点を含めた生涯活躍のまちの担当をさせていただくことになりました。まだ、初めてお目にかかる方がたくさんおられますけれど、どうぞよろしくお願ひ致します。今会長さんの方からもお話がございましたけど、この協議会の方で平成 30 年の 5 月に、このあり方について取りまとめをいただきまして、町長の方に提案書と言いますか、意見書という形で提出をいただきました。それ以降買い物機能の話は先ほどございましたけど、町のいろんな支所であるとか、ここの泊の分館の話でありますとか、あるいは

漁村センターでありますとか、そういった物をどうしていくかという事につきまして、これは公共施設でありますので、町の方でそれぞれ検討しておいた訳ですけど、なかなか十分な検討がされてこなかったという部分もあろうかと思えます。昨年引き継ぎましてから、担当課と集中的に議論を繰り返させていただいておまして、その結果を今日は基本的には最終話になろうかと思えますけど、みなさまの方にご報告させていただき、具体的には次年度の予算の方に反映できる物は、しっかりさせていただこうというように考えております。この泊地域がより暮らし易く、みなさんの生活がより一層豊かになるように、なんとか町の方でも出来ることに対して支援をしていきたいと思っております。また、買い物機能につきましては、また後程会長さんの方からご報告をいただくというように聞いておりますので、それと併せてひとつよろしくお願い致します。

3. 各公共施設（役場泊支所、中央公民館泊分館、漁村センター、青少年の家）の今後の方針について（会長）

それでは、公共施設の今後の方針についてという事で、役場の方からご説明をお願いします。（事務局）よろしく申し上げます。役場の公共施設の在り方という事で方針をお話しさせていただきますが、みなさんご存じの通り資料をお配りしておりますが、協議会の方から町に提案書が出されまして、その中で公共施設の在り方という事でも提案がなされております。その案につきましては、町の方で検討を重ねてきて、ある程度方針を出させていただいたというところがございます。また、買い物機能につきましては提案書が出されまして、引き続き協議会の方で意見をいただきながら検討されてきているという状況でございます。まず、泊地域の公共施設の在り方という事で、これは町の方の調整会議にかけまして、町の方針をまとめたという事で、資料 1 の方に概略を載せさせていただいております。まず役場泊支所につきましては、提案につきましては、機能を継続して建物は改修するという提案をいただきました。でそれに沿いまして、方針としましては、耐震補強工事を致しまして、役場機能を継続していくという事で 15 年程度は維持していくという方針であります。それと 2 階部分につきましては、津波対応の指定緊急避難場所として整備していくというものでございます。来年令和 2 年度から設計に着手するという予定でございます。続きまして、漁村センターにつきましては、提案につきましては、機能は新拠点に移行せず、建物は古いという事で将来解体するという事で提案をいただきました。この事につきましては、漁村センターにつきましては、耐震基準をクリアしておまして、15 年程度は継続して使用するという方針を決めております。15 年後につきましては、施設自体も耐用年数を過ぎますので、解体する方針であるという事があります。次に中央公民館泊分館につきましては、機能は新拠点に移行せず、機能を継続して建物を建て替えるという提案をいただきました。それに沿いまして、今あるこの場所ですね、この場所に解体して新築するという方針で決まっております。この分につきましては、前の区長さんと、教育委員会生涯学習・人権推進課と区長会、ある程度の説明はしてきているという状況でございますが、今年度基本設計、解体の設計に入るという事で、来年以降から具体的に整備内容に入っていくという予定で進んでいくという事でございます。それと歯科が隣接しておりますが、歯科については残す方向で調整するという事で決めております。それと青少年の家につきましては、提案につきましてはもう古い建物なので将来解体していくという提案をいただきました。ただ公民館を建て替えるという事になりますと、公民館に代わる施設が必要になるという事で、当面公民館建て替えに伴い、青少年の家を代替施設として使用するという予定であります。4 月からは、青少年の家としての役はストップするという事で方針を出しています。いろいろと協議会の方から提案をいただきました、公共施設についてはこういう方針という事で進めさせていただくという事で、ご了解をいただきたいと思えます。以上です。もし補足説明とかありましたら。

（事務局）では、ひとつ補足説明をさせていただきます。よろしく申し上げます。町民課が持っているのが泊支所と漁村センターでございます。泊支所の方でございますけども、先ほど説明もございましたけど、今現在計画と致しましては、来年度設計にかかりまして、その続きで工事にかかるという事で、3 年中には工事を完了したいというところがございます。その工事の中で、耐震をするにあたりまして、施設の方を 2 階部分でございますけれども、指定緊急避難所という事で、今漁村センターの方では、津波に対しては避難所になつりませんので、少しでも避難していただく場所をというところで 2 階の方を改修させていただきたいと思っております。漁村センターですけども、こちらの方は耐震をクリアしているという事でございまして、耐用年数があと 12、3 年ございます。その過ぎたぐらいまでは維持していこうというところがございます。そんなところがございます。また、何かあればお答えしたいと思います。

（会長）ありがとうございます。

- (事務局) よろしくお願ひします。青少年の家の方の補足で、今現在この中央公民館の解体、基本設計にかかっているところですが、今年 4 月からは、青少年の家の方は予約は受けませんが、今まで地域の奥さんや毎年ご利用いただいていた団体とか、保護者会さんが使っているところにつきましては、支障のないようお受けしていくつもりです。食堂をのぞいたら基本和室しかありませんので、今中央公民館の方で活動しとられるとかあるいは必要な会議がある場合に備えて一部和室を簡単に洋室、椅子で座れるような対応を、来年度早々にしようという風に考えております。いろいろとご不便をおかけすると思ひますが、よろしくお願ひします。
- (会長) はい、ありがとうございます。委員のみなさんからご意見や聞いてみたいことはありませんでしょうか。よろしいですか。ひとつだけ、役場支所ですけど、あそこは通信の施設が入ってて、すぐ取り壊すのにも、かなり移転にもかかるという事ですか。この 15 年の間にそれもスムーズにその設備はどっかにまた行くような形で計画されているという事ですかね。
- (事務局) 光ケーブルの関係っていうですか、その関係の分が今泊支所の方にその元がありまして、その物については、すでに再整備という事で済んでおりまして、これからまた 10 年後という事になります。当面は泊支所の方で運営していくという事になります。
- (会長) じゃあ、またどこか違う場所で行くという事になってくるんですかね。
- (事務局) 10 年が耐用年数になりますので、今後 10 年後に動かすかどうかという事は議論することになります。
- (会長) はい、分かりました。ありがとうございます。
- (委員) 青少年の家の駐車場ですね、今社会福祉協議会の職員が職員の駐車場として借りております。その辺が公民館になった時にどうなるかっていう事は協議させていただきたいと思ひますし、駐車場自体もう穴ぼこだらけなので、その辺も駐車場の整備というのも、ぜひ検討いただければなあと、みなさんが利用される施設になりますので、その辺をご検討いただければと思ひます。以上です。
- (委員) 根本にかかわる質問ですけど、この協議会は半年以上開かれてなくて、やっと開かれたんですけど、本来意見書を町に提出して、それでこの協議会の役目は、ほぼ終わったんじゃないかと思ひとりまして、今後続けていくこの協議会の位置付けってのがちょっと分からなくて、その辺を説明願えればと、半年間開かれなくて、その間はどのような動きだったのか、でないこの委員さんとかは、なんで呼ばれとるんだろうっていう、ちょっと不安になると思ひし・・・。
- (事務局) 昨年協議会の中で買い物機能を検討するという提案書を提出された後に、協議会で買い物機能について検討、意見をいただいたというところで、昨年の 3 月にある程度の意見集約したものが出来上がったというところでありまして。その後についてはある程度今度は現実的に運営をどうしていくのかと、もしそういった建物が出来た場合に運営をどうしていくのか、組織はどうすればいいのかという中で、協議会の中でちょっと話が出ていたんですが、そういった運営団体を設立してはどうかという話の中で、ただ一部の有志の方でそういった話の中で、運営団体設立の話は進んでたんですが、ただ、現実的に色々な課題と言うのでしょうか、実際に設立についての課題であるとか、運営するにしても収益だとか色々課題が話の中で出ている中で、実際にそういう組織の立ち上げというのが動けるかと言ひましようか、そういった部分があって、その状況報告にしても、協議会のみなさんに来れる段階ではない、というところがあって、ここまで延びてしまっているという事があります。今後の協議会の在り方という事では、今後また設立団体、今一部の方で検討協議されているんですが、そういった部分が具体化してきましたらある程度協議会としてもそういった応援体制と言ひましようか、今まで買い物機能をみなさんから要望があって、検討されている中でそういった物が立ち上がるという事であれば、ある程度の応援体制を取っていただくためにも協議会をもう少し残して、そういった連携と言ひましようか、意見を貰って連携出来たらなあと思ひているところです。
- (委員) その有志の団体の出来てきた組織とか計画とかを見させていただいて、協議して応援というか支援というか、もうちょっと計画を変更して欲しいって提言をしていく協議会と考えればいいですか。
- (事務局) ある程度の運営する団体が出来ると、そういったところが主になって、実際の経営とかをやっていく運びになると思ひます。で、その中では協議会の意見をどこまで入れるか分かりませんが、主はその団体になりながらも地区の応援体制と言ひましようか、そういった部分も協議会も一役担っていただければという思ひはあります。
- (委員) はい、分かりました。もう一点、ここの中央公民館泊分館を建て替えるという事で、来年解体再来年建設という風に聞いとるんですが、区長さんにはどういふ公民館にしてほしいって意見を

- 聞いたって事ですけど、地区の住民から要望を聞く機会は、持たれる計画とかはございますか。
- (事務局)今まだ具体的には詰めてはいませんけど、基本設計に取り掛かったばかりで、出来上がるまでには意見を聞こうと思ってます。ただ、誰々についてというのはまだ固めてませんので、まあ出来るだけ・・・。
- (委員)是非若い世代の方の声を聴いていただいて、泊の住民だけではなくて、羽合とか東郷あるいは、町外からも利用客が利用しやすいような、外から利用できるような施設にしてほしいなあと考えてますので、是非よろしくお願い致します。
- (事務局)検討してみます。
- (会長)その他委員のみなさんいかがですか。それではおいでになってらっしゃるオブサーバーのみなさま、施設に近い区もございまして、ご意見何かございましたら、どうぞ。
- (区長)泊支所なんですけど、耐震補強工事中はどっかに機能を移すとかはあるんですか、そのまま出来るんですか。
- (事務局)今現在の段階ですけど、そのままの状態耐震工事をしようという事で考えております。
- (区長)前に漁村センターに移すとか何とかあったから、ちょっと心配してたんですけど。
- (会長)そのまま今の業務をやりながらっていう事ですね。よろしいでしょうか。
- (区長)はい。
- (会長)その他よろしいでしょうか。そうしましたらまた後程こういう事は出てくれば、またそこで、ご意見いただければと思います。

4. 買い物機能の検討状況について

- (会長)では、次に買い物機能の検討状況について、私の方からご説明させていただきます。先ほど事務局の方から説明がありました提言した後に、どうしても必要なんだ、この地域にまだまだ車で移動できる方っていうのは、そう不便は、自分も含めてですけど、生活不便を感じてないのが正直なところなんですけど、ただ、自分で車を運転できない高齢者の方にとっては、ほんとに地元で買い物するところが無くなったら大変なんだっていうご意見もいただけてますし、各地区でも呼ばれて説明してくれて呼ばれた時にも、何とか買い物するところを作って、出来れば運んでほしいって、いろんな意見を聞いております。作るにあたってですね、協議会ではこういう施設があった方がいいって、提案させていただきましたけど、実際誰がどういう形で運営するかという事には、まだその時点では触れていませんでした。そうは言っても私たちも乗りかけた船ですし、何とかしたいなあとという事で、いろいろ模索したんですけど、やはり行きつくところはお店って泊で経営して成り立つかいなあ、誰がそのお金を責任を持ってちゃんと経営するかっていうところで、正直なところ行き詰まったりしまして、色々試行錯誤しているところに、何名か、このメンバーの中にもおりますし、もうひとつの協議会もございまして、少しずつ少しずつですけど、やっぱり必要という事で動き始めておまして、今現在、民間団体で NPO 法人を泊に、この地域に作ろうという事で、今現在色々な規約を作ってみたり、何はともあれ最終的には住民の方に支えていただかないといけないので、どうやったら、住民の方が一緒になって、協力していただける体制が取れるかなあ、今そこも練りながらやっております、ようやく一応これから規約を作り始めたところでして、原案が出来たところでは、当然最初に動き出す出資も必要ですし、運営体制をどうやって行くかということには着手しております。一応法人として今のめどでは 4 月くらいには設立に向けて、いろんな許認可を取っていかうかなあと、遅くとも夏には何とか形を作っていきたいなあと考えております。ただ、その中で一番気になるのは、住民の方がどういう形で協力していただけるか、いろんな形で、賛助会員とかになっていただいて、実際作る店舗をどうやって買い支えしていただけるかっていうところをやはり考えていかないといけないだろうなと、正直言ってなかなか泊に店舗を作って、誰か入りますかって言った時に、なかなか実際ないと思います。泊のほんとにこの住民だけで、お店が成り立っていくっていうのもなかなか数字上立っていかないところがありまして、そうは言っても何らかの形はやっていかなくてはいけないだろうなと言うところで、今おるところです。当然スタートアップには行政からの支援も必要ですし、そういったところも今検討しながらやっております。もう少し春ごろには、もう春近いんですけど、4 月くらいには、こういう組織で、どういった形で住民の方が参画していただけるかっていう事は、この協議会の場とか住民のみなさんに周知出来るような事は出てくると思いますので、出来るだけみなさんのご意見をいただいたり、特に各区長さん方、住民の方に、色々ご意見をいただいて参加していただくという形を整えていけたらと思います。それと併せて、旧泊村といいまして、旧泊村といえども広くありまして、なかなかそこに、例えば今泊の港辺りって

想定してはありますが、なかなかそこまで歩いて行けるエリアって限られてきますので、もう一方では移送であったり、移送手段ですね、人を運んだりもしくは移動販売っていう事も含めて、筒地・小浜から原・宇谷まで、皆さんが利用できる形をどうやって作っていくかという事も含めて、今検討しているところです。まだまだ、アンケートが取ってありますけど、全世界帯の対象が 6 割弱だったんですけど、これも実は最初に始めた時に、各区を回って、住民の方のご意見を伺う機会を作ったんですけど、その時には住民全体の 5% しか参加がなくて、最初はどっか 1 カ所であって思ったんですけど、それじゃあさらに少ないだろうなあという事で、各区に日程調整して伺ったんですけど、それでも 5% しかおいでいただいて、意見聞くことが出来なかったんで、それではまだまだ判断も出来ないし、住民の方に周知できてないんだろうなあという事で改めてこういうアンケートを取らせていただいて、みなさんの意見が少しは反映出来るような形になってくんじゃないかなあと思っておりますので、これからは動きがある度に、またこの協議会だったり地区の方には説明できる機会が出来ればなあと思っております。簡単ではございますが、今現在そういうところで動いておりますので、なんとか運営に向けて進んでいけたらと思っております。簡単ですけど、委員のみなさん何か、あれから動きがなかったんでなかなか情報がいつてなかったと思いますけど。

(委員)終わったものと思っております。

(会長)まあ、終わってこれから実際動くようになった時には、先ほど事務局からあったように、どういった支援体制を取っていただいたり、各住民の方に浸透していく事が大事になってくると思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。どうですか。

(委員)そうですね、こういった具体的に一つ一つ話が進んできているので、自分の立場としては漁協という事で協力できることがあったら、させていただきたいと思ひます。

(会長)特に店舗運営という普通の日用品だけでなく泊の強み、魅力って言ったら、魚、魚介類だと思いますのでそういった物も併せてやっぱり住民の方にもしくは外の方に広報して買いに来ていただいて、なんとか店舗の売上げをと思ひますので、是非是非漁協さんにはよろしくお願ひしたいと思ひます。

(委員)今漁協さんも言われましたように、店舗いわゆる店ですね、そういうところでは JA もまあ、ここは自分の判断だけでじゃべつとりますけど、例えば直売所の品物をこっちの方に引っ張ってこれないかなあとか、直売所の隣にコンビニもございまして、そういったような品物もこっちに引っ張って、これでいわゆる生活必需品的なものもそろえてみたらどうかなあとか、あくまでも妄想ですけども。そういう事を考えておりますので、これが実現、話がどんどん進んでいくようであれば、やっぱり JA 鳥取中央の方にも話を、どんどん進めていくべきだなあと思ひしております。

(事務局)是非よろしくお願ひします。泊も農産物良い物がたくさんありますし、そういった魚介類とか農産物とかも含めた魅力あるというか楽しそうなところが出来ればいいかなあと思ひます。

(委員)今年度初めての会なんで、進捗状況とか分からなかったんですけど、前回アドバイザーさんに設計図みたいなどころまで描いてもらったところもあったんで、進んでいるものかなあと思ひて、この話が適切かどうか分からないんですけど、この前泊小学校の参観日の懇談の会の時に、今港区で飲食店が頑張って営業しとられると思うんですけど、そこに子どもがちょっとたむろしているみたいなんですが、話題になったみたいで、ちょっと風紀的にどうなんだろうみたいな話も出とったようなんですけど、なんか子どもが集まってワイワイするのは悪い事ではないと思ひますけど、飲食店に、子どもがそういうところに固まると若干お客様がいきたくていうとまたそこは別の話なんで、やっぱりあの辺にコミュニティ機能があれば、地元の子供たちが集まって楽しくワイワイ過ごせるような機能が出来て、それが地域の活性化に繋がればいいかなあと思ひてたんで、この話が 1 年間会議がなかったんですけど、前に進めていけるような感じで期待しています。

(会長)はい、ありがとうございます。もしオブザーバーの方から何かご意見何か、こんな事があればっていう事をいただけたらありがたいです。

(区長)さきほど委員さんが言われた件がちょっといいなあと思うんですけど、倉吉の灘手っていうところが、店舗を経営しているらしいですよ。言われるように農産物ですとか、住民の方が直接そこにおいたりとかしているらしいんですけど、JA の跡地をうまく活用して鳥取県や倉吉市の援助を受けて、やっとならしいんですよ。で、どんなもんか聞いただけなんで良く分かってないんですけど、泊としての JA の直売所の農産物とか定置網でとれる魚だとか、そういう物を売っていただければ、新鮮な状態で助かるだろうし、もし泊でひとつのそういうモデルが出来れば当然宇谷とか、原とか、そこも含めた形でミニ店舗みたいなものをつなげて経営できるんじゃないかという広がりがひとつの拠点から出来るのかなあと思うんですよ。参加が今日初めてなんで、内容を全然熟知してない

ので、何とも言えないんですけど、そういうひとつの成功事例もあるという事で、倉吉市役所辺りに聞いてなんかいい方法がないかなあという風に検討いただければなあと思います。

(会長)ありがとうございます。はい、分かりました。確かに実際に何回か行って見て、地元の方が順番で店番したりしてやっとならねえですね。確かに、買って買ってばかりじゃなくて逆に売るものを持ってきてもらうっていう参加もありかなあと思いますし、色々な形で参加していただいて、住民の方のお店っていう形で何とかやっとならねえなあと思います。その他何か、オブザーバーの方から、ないですか。もし役場の方でも、副町長さん何か。

(副町長)適切な話かどうか分かりませんが、JA さんの話もあったんで、鳥取市に JA の直売所があるんですけど、結構農家さんが次から次から、自分のところで作ったものを拠出されてるという状態がありまして、そういうような事が泊地域でもし出来るのであれば供給の方はそれでなんとか賄える、これは実現できるかどうか分からないけども、そういう事も、ひとつの、そこは野菜だけじゃなくて、魚も売るとるんです、あと花とか、お墓に持っていくものとかそういう物がひと揃え売ってますんで、そういうようなイメージのそれはかなり大規模なものなんですけど、そこまで物ではなくても、そういう物がこの泊地域に出来ればなあとみなさんの話を聞いててちょっと思ったんで、一言申し上げました。

(会長)ありがとうございます。去年の夏頃だったか気になったのは、鳥取の駅前の商店街の中にパレット鳥取っていうのがあって、あの中に実はお店が入ってたんですけど、それが撤退しちゃって、それでその地域の振興協議会が、やっぱりあんな街中もお年寄りの買い物不便になっちゃったって言って、でどうしたかっていうと、その振興協議会がオーナーになって、コンビニをやってる、あんな街中で買い物難民なんておるんかなあと思ったんですけど、実際あるらしいですね・・・。

(事務局)店のあるところとないところが極端です。

(会長)ですね、そうやってみれば泊なんか目に見えて不便なのはこれから先特に・・・。いろんなそういう事例って言いますか、参考になることは取り入れていけたらなあと思います。他はないですか。

(委員)私も話を聞いたばかりで、分かりません。

(会長)県の方から折角おいでになられた、なんかこう、どっかでこうさっき言われた灘手とかやっとならねえような、こういう形でやっとならねえような物が、もしご紹介でもいただければ、ありがたいんですけど。

(オブザーバー・県)先ほど倉吉灘手のお話がありました、ちょっと関わっているものですからご紹介いたします。ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、30 年の 3 月に地元の住民さん有志が立ち上げられたお店です。ですから先ほどおっしゃったように、旧 A コープ店の方が、生活センターが閉店になって、地元の方たちが危機感を持たれて、アンケートとかされて、それなりのニーズがあるという事で立ち上げられた、というところで 2 年近く経過しているような事でございます。キープポイントは住民の方が自ら立ち上げたお店という事と、それから一部の方ではなしに、地区の住民の方に、言い方は悪いかもしれませんが買い支えていただく事を主眼に店舗運営をしていらっしゃる所であります。住民の方ですから店舗運営っていても、失礼ながらド素人のところがありますから、1 年目は非常にご苦労されたようなんですけど、今年度になって、2 年目になって、1 年目の反省とか課題をいろいろ棚卸をされて、なんとか買い支えも含めて、単月黒というところで頑張っているというところがございます。ただ、マーケット自体が、灘手自体が、300 世帯高齢化 40%弱くらいのところですし、失礼ながらこちらとそうそう変わらないマーケットエリアかなあと思っておりますけど、ただその規模ってなかなか、そのマーケット規模からいけば、会長がおっしゃるように、継続運営が厳しい状況だと思うんですけど、そこは従業員のコストとか、その辺を切り詰めながら、あるいは仕入れの方を切り詰めながらという事でなんとか継続を目指してほしいという状況です。こちらの協議会さんの方が、以前に島根の雲南市波多の方に視察に行かれたと思います。全国的に見ても地域の住民さんが立ち上げたお店ってそうそうないようでして、しかも財政的な支援のない中での経営黒っていう事例が、なかなか全国的にも無いようでして、そういった事からすれば、倉吉灘手の取組っていうのは、非常に注目される事例かなあと思っております。何分にもまだ 2 年ちょっとしか経ってませんので、一概に言えませんが、こちらの方の取組については非常に参考になる事例かなあと思います。それから 1 点質問させていただきますけど、これから NPO の立ち上げておっしゃってましたけど、その法人の形態ですけど、灘手の方は一社っていう形態です。

(会長)一社？一般社団ということですね。

(オブザーバー・県)いう事にして、営利もちょっと約款に入れている、いう事にして、スーパーの方は

営利的なところになるんですけど、非営利の NPO になるとちょっとその辺方向性が違ってくるかなあと思いますけど。

(会長)それに関しては、いろんな法人の形態も考えたんですけど、NPO とはいっても、ある程度収益上げて、活動を続けていくには収益を上げていく必要もありますので、まるっきりのボランティアではやっぱり NPO といっても継続できないので、やっぱりそういう部分では地域のための店舗という事の位置づけで、ただ単に企業の収益目的だけではなくて、地域の方のためになる店舗と、少なくとも法人が運営できるための、ある程度ほんとに収益が上がればいいんですけど、なかなかそうはいかないと思いますけど、そういう目的での店舗経営っていう意味で考えてます。実際に NPO で収益事業をやっているものは実際にはあちこちでみられるけど、なかなか成り立っていくのは難しいっていう事であって、基本的には収益があったものを単年度で配分さえしなければ、基本的に NPO としての、それは例えばボーナスみたいに配当みたいに出すっていう事がなければそれは問題ないはずなので。

(委員)ちょっと灘手の店舗について質問させていただいていいですか。倉吉市の集落支援員の方が、関わっていらっしゃるんですか？この前クラウドファンディングされて、目標以上のお金が集まって、今後何をされるためのクラウドファンディングだったかっていう事と集落支援さんは毎日そこに従事されているのか、どういう関わりをされているのか教えていただければ。

(オブザーバー・県)もともとお店を立ち上げる以前から、集落支援員さんがその地区に入っていってしゃって、地域課題をサポートしていらっしゃるという経過があります。で、この度のクラウドファンディングに関わった集落支援員は 2 代目の集落支援員っていう事になるんですけど、この春 1 年前の春からいますけど、買い支えっていうかいかにか売り上げを上げていくか、みなさんに関心を持っていただくかいうところで、コミュニティスペースの話があったわけなんですけど、建屋の一部に空いたスペースがありまして、そこを使わない手はないかと、そういったところを改修して、コミュニティスペースにしていく、で地域の人にどんどん使っていただく、ついでに買い物もしていただくというようなスペースをこさえるための、改修するためのクラウドファンディングを立ち上げたという事でありまして、クラウドファンディングはなかなか素人では出来ないわけですし、この集落支援員がですね、非常に気を利かせて、色々情報を仕入れて、やり方も自分で勉強して県の方に申請したという事です。この集落支援員さんは、常時そのお店に関わっているっていう訳ではなくて、ミッションとしては買い物の支援はあるにしても、地区の中の他の課題のミッションもあるという事でありまして、当初はかなり買い物支援のミッションの方に関わっていらっしゃるように伺ってます。

(委員)はい、ありがとうございます。

(会長)単月黒ってすごいと思いますけどね、やっぱり。あの、別の場所に視察に行った時はですね、収支の方もお聞きしたんですけど、最初どうですか収支はって、ようやく今年 5 万円 10 万円くらい黒になったかなあっていう話だったんですけど、でも実は内情を聞いてみると人件費は全く補助金で貰ってて、それを考えると店舗としては大赤字です、何百万って。そういう状態だったんですけどそこは特殊で山間部だったんでそういった団体に対しての補助金があって、そこで働く人たちの、旧小学校を改修して公民館機能もあったんで、そういった人たちも含めてスタッフがいて、その人件費が自治体から出たっていう状況なので、ほんとに単月黒に店舗だけで黒に持っていきつつ、相当やっぱり覚悟してがんばらないと思います。せっかくオブザーバーの専門家の方がいらっしゃるんで、何かご意見があれば。

(オブザーバー)買い物難民という事で、小さな拠点の施設を考えた時に高知県の四万十に行ったんですよ。そうするとここと同じように 1 区から 6 区まであって、各区の持ち回りで、ずっとその主婦の人たちがやるのは大変なんで、持ち回りで、今週は例えば 1 区なら 1 区の婦人が中心となって自分たちの周辺の野菜を持って来るとか、あるいは食事を出すんですよ。みなさんに聞きたいのは、特にここは年配の人が多いんですけど、お酒がどこで飲めますか。倉吉で飲んで帰ってくるのか家で飲んでいるのか、この前ここでちょっと会があって、どこで食事するんかいなあと思って、飲食店とかちょっと定食があったりするんですけど、みなさんは普段は家で食べて飲んでっていう事で普段はどうされてますかって逆に聞きたいですよ。だからその四万十、山の方で誰も来ないようなところにポツンとある、廃校になった分校があって、そこをちょっと小ざれいにして、そこに地区の人たちの例えば味噌、醤油や缶詰とか、飲み物を買って置いておいて、その近くの人が歩いてこれる範囲内の人に来て、欲しい物を買って、そこで飲んで、そこで話をして帰るといったような拠点になってるんですよ。そういう場所を作るっていう事でね、人件費なんか初めから考えてませんよ、だから順番でやりましょうっていう事で、ずっと同じ人がやると大変だから、各区の持ち回りで、今

週は何区がやる、何区が中心となってやるのか、順番で、それぞれの区の自慢の料理みたいなものを順番に出して、今週の昼はこういうのが出ますよっていったら、それを目掛けて食べに来る人がおったりとか、夜はお酒が欲しいっていう人はそこに行って、買ってその場で食べたり飲んだりして帰るっていうような、ほんと誰も来ないような山奥でそういう風にして運営してる。だから買い物ができなくて困っている人たちが自らが動かないと解決しませんと僕は思います。ほんとに何とかしようと思ったら、外ばかり頼るんじゃなくて、最初は自分たちが順番にやりましょうよとか、あとは建物建てるのは、例えば商工会あれ空いてるでしょう、空いてますよね。だったら 1 階に空いてるところにそういうスペースを作りましょうよ、で、順番に地区の魚でもいいし、野菜でもいいし、持ってきて毎日が大変だったら月に 1 回とか 2 回だったら、土日だけでもいいんで、そういう物をイベント的に、じゃあ週に 1 回、あるいは月に 2 回くらい地区の野菜を安く売りますよ、あるいは魚も安く売りますよ、みたいな事をやっていく事が大事だと、何もやらないではなく、試してやってみると、その中でまずい事が出てきたり、よかったという事が出てきたりしたら、試行錯誤しながら進めていく、行動を起こさないと、検討だけだと物事進まないと思うんです。やってみてその中から初めて問題がでてくるんじゃないのかなあとと思うんで、是非試行錯誤してください。そうすると最初は赤字を覚悟しないと行けないと思うけど。おそらく 2 年、3 年ってなってくると、だんだんとトントンになってきて、やがて若干の給料っていうか、謝礼金くらいは払えるようになってくると思うから、2、3 年は我慢しなくてははいけない。何かをやらないと、困っている人たち自ら行動を起こさないと解決しないと思いますね。

(会長)はい、ありがとうございます。ごもっともなご意見です。ちなみにその高知は何年くらいやってるんですか。

(オブザーバー) 2、3 年くらいだったかなあ。本当に山の所の廃校のところに共同浴場って大きなお風呂を作っている。で、もうひとつの方は川の近くに、近くのおばさんたちが野菜持ってきて、ご飯をみんなで共同で作って、みんなで食べようと。で困っている人達に弁当を持っていこう、そういう活動してました。だからそういうような事をやらないといけないんじゃないかなあとと思う、出来る範囲で。この前ここをずっと歩いて、商工会が空いてるわって思って、まさに商工会です。商工するところの会館なんで、空いてるんならそこを使って、商売の場所として、やってみたらどうかなあと思いましたけどね。

(会長)はい、ありがとうございます。実際今もあつたですけど、社協の方でもお弁当を配る世帯って結構あるんですよ。

(委員)今社協、お弁当についてはまごころ配食っていうのをやっています。対象者は言ってみたら買い物に行けない人とか調理できない人が対象になります。年間で 500 食くらい。毎日型、夕食のみっていう事で利用者は多いです。泊地域については、毎週 1 回社協の研修室を使って、そこでボランティアさんに来てもらって調理してもらってですね、そこで高齢者の方に来てもらって食べていただく、っていうのも毎週 1 回あります。利用者はかなりおられます。あとは乗り合いバス、毎週運行してます、目的地が羽合のスーパーです、これも高齢者が対象なんですけど、泊からバスで出発して、スーパー方面に向かう、役場に行ったり、ホームセンターに行ってお買い物をして帰っていただく、っていうのが毎週 1 便、東郷地域の方はですね、実は 2 便出ております。2 便で羽合に向かって行ってそこで、お買い物をして帰っていただくという事があります。それで社協としても利用があります、で、買い物に困っていらっしゃる人はいます、ってなると泊地域の方だけではなくて、逆に収益を考えると、やはり先ほども JA で野菜を置いたり、新鮮な魚を置いたりだと、逆に羽合地域の人や東郷地域の方が、泊でないと買えんっていう物が出れば、社協も羽合に行くだけではなくて、羽合や東郷から泊に行くっていう運行っていう事も考えていって、それが、町全体の活性化につながれるのであれば、協力はさせていただきたいなと思います。

(会長)町内唯一の漁港ですからね。ちなみに買い物バスってどれくらい泊の場合利用者が・・・

(委員)今の場合泊は 10・・・登録者はいらっしゃるんですけど、1 回で利用されるのは毎週 10 名から 20 名くらいです。

(会長)なるほどね、移動に困っておられるっていう事ですね。分かりました。ありがとうございます。あの、海の駅協議会っていうのがありまして、こっちの方もいろいろと地域のためにやっていますけど、そこでアドバイザーをやっている方がいて、ずっとここ何年か泊地域に関わっていただいています、いろんなところを見ていただいています、今この小さな拠点協議会の話の中で、なにかご意見やアドバイスをいただけることがございましたら、お願いしたいなあとと思いますけど。

(オブザーバー)海の駅の方に少しだけ関わっていますが、今難手ですか、私勉強不足で初めて聞きまして、

やっぱりさっきおっしゃったように全国的にもなかなかそれで成立する小さな拠点はなかなか少ないと思います。私出身は雲南市なんですけど、波多も良く分かるんですが、灘手の例はすごく私自身が今見たんですけど、非常に全国的にも参考になる事例だなあと、そして灘手の取組をしっかりと検証された方がいいなあとと思います、先行して、チャレンジされている方が身近にいらっしゃるんで、それは大変だったと思うんです、ほんと。地域の方がかなり参加しないと買い支えないと思いますね。だから始めるときに、地域が覚悟を決めてみんなで参加して、小さな拠点の場合には時には住民の方々の会費、一人年会費 100 円なんてところもあるんですよ、100 円だけど、必ずみんなが参加すると、100 円ならみんな参加できるんです。みたいな形でかなり地域の方が参加して、ある取り組みを進めるっていう事が重要。運営にはやはり持続性っていう事が重要なんで、収入は、行政だけから収入を貰うようでは、限界が必ず来ますから、じゃあどこから収入を得るかという、東京や大阪から収入はなかなか得られない、やはり日々日々の地域の方の買い支えとか、周辺の方が来られるとか、しっかりおえていく事が大事だなあと、いう風に思いますんで、今の事例、私は非常に身近にある大切な事例として、私も勉強させていただけたらと、私も初めて知って、一般社団法人、小さな拠点は NPO が多いんですけど、一般社団法人でやってらっしゃるいい例なんで、非常にまだ少ない事例かなと思います。その事一番感じました。あとは地域の方が必要とされるサービスは何かという事を十分整理して、アンケートされてるんですよ、買い物とか、支えあいとか、見守りとかいろんな事があると思うんです、あとはお金に代わる買い物事業ですね、今聞きながらそんな事を・・・。

(会長)ありがとうございます。協議会の方で若手で頑張ってもらってる委員さん。

(オブザーバー)確かに小さいときは店がもっとたくさんあったなあって。買い食いだめって言われてたんですね、小学生、いろいろまあ友達と、歩いて帰る事があって、泊の友達と、よく買い食いしよったなあって思いながら、遊び場っていうのも、こども園の遊具も壊れてなくなっちゃったし、子どもたちが遊べる場所が少なくなってきたかなあと、公園もあるんですけど、あんまりサッカーと野球は難しいですからね、サッカーくらいかなあと、あんまり面白くないのかなあと、子ども目線からしたら、そうやって一緒に遊べて買い物もできて、いう環境はすごい、本来あったものだし復活させたいなあとと思うんで、あと算数の勉強になりますよね、子どもにとっては、お菓子買うためにちょっとお手伝いして、300 円くらいもらって、じゃあ何が買えるかなあと、買った物で友達とトレードする時に、それが公平なのか、不公平なのか、いろいろけんかをしながら、そうやっていろいろ勉強になると、生活しながらいろいろ勉強が出来たんじゃないかなあと、今そういう機会ってすごい少ないんで、是非ともそういう物を一緒に、今結構高齢者がメインで考えられると思いますけど、子どもたちも仲間に入れてあげて、そうしてもらったら地域の見守りにもなるし、お年寄りもそうやって子ども達を育てとるっていう楽しさがあれば、また幸福度も高まるのかなあとと思いますし、地域として、古き良き時代をまた、もう一度と思いますので、よろしく願います。

(会長)ありがとうございます。若い方に意識を変えてもらって、週末ショッピングモールに行くなどは言いませんけど、そのうちの何%かは地元で買いたいという意識をちょっとずつ、つけてもらって。

(オブザーバー)多分あったら、僕なんかでも子ども退屈するんで、どっか公園とか行こうと思うんですけど、なかなかキリン公園に行くか、ポート赤碕に行くか、後は分かんないなあ、鳥取の重箱公園とか結構遠いんですけど、子ども達はあっち行きたがるんで、でもやっぱり買い物がないんで公園の中には、ポート赤碕はあるけど。あったら便利だから行っちゃいますよね。

(会長)分かりました。若い、同世代の友達とかにも広めていただければありがたいなと思います。では、買い物機能の検討状況に関しては他にありますか。よろしいですか、区長さん方。それではこれは一旦締めさせていただきます、その他の方に行きますけど、なにかありますか。

5. その他

(会長)その他何かありますか。よろしいですか。では次の会という日程までは決めませんが、また、動きがあった時に開催するという事でいきたいと思いますので、それでは以上で、終わらせていただけてよろしいですか。

6. 閉会

(会長)それではみなさんお忙しい中、またお寒い中おいでいただきましてありがとうございます。特に区長さん方本当に、注意してこの動きの方も見ていただけたらと思いますし、住民の方の方にも

こんなことやってるよって集まる機会があったら、伝えていただけたら結構ですし、もし各区の方に、どうなっているか説明に来るようになっていう事でしたら、いつでも行きます。実際去年の後半にもありましたし、お伺いして、説明とか協力をお願いの方をさせていただきたいと思いますので、また引き続きよろしくお願ひ致します。それでは今日はありがとうございました。